

IMAGINE ROTARY

2022-23年度 RI会長／ジェニファー・ジョーンズ
RI.D2590ガバナー／志村 雄治
横浜旭RC会長／安藤 公一

「想像してください、私たちがベストを尽くせる世界を。
私たちは毎朝目覚めるとき、その世界に変化をもたらせると知っています。」

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-37-3 NUTS1階／〒241-0821
TEL.045-465-6702／FAX.045-465-6712
http://yokohamaasahirc.cho88.com
Email:asahirc@titan.ocn.ne.jp

例会場 二俣川相鉄ライフ 4Fコミュニティサロン
例会日 毎週水曜日／12時30分～1時30分



横浜市幼稚園協会へエコペーパー石鹸配布



ガールスカウトとクリーン作戦



鎌倉・江の島へ親睦旅行

2023年3月1日 第2497回例会 VOL.54 No.30

■司会 SAA 岡田 隆

■開会点鐘 会長 安藤 公一

■出席報告

会員数	18名	本日の出席数	13名
本日の出席率	76.47%	修正出席率	81.25%

■本日の欠席者

宋、中谷、田川、二宮

■オンライン出席者

関口(大)、市川、福村

■ゲスト

大関 晃一様 (神奈川県社会福祉協議会地域福祉部地域課課長)

菊地 隆雄様 (神奈川県社会福祉協議会地域福祉部地域課主幹)

シン・ソクチョル様 (元米山奨学生)

■誕生日祝い



市川慎二会員 3.9

佐藤利明会員 3.23

田川富男会員 3.30

■PHF 2

(ポールハリスフェロー
2回目)

増田嘉一郎会員



■会長報告

本日は、災害復興フォーラムとして神奈川県社会福祉協議会よりかながわボランティアセンターの大関課長にお越しいただきお話を頂けるとなりました。社協とロータリーの活動が如何に有機的に連携できるかを念頭に伺いたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

3週間前に発生したトルコ南東部・シリア北西部にまたがる地域での大地震では、既に死者は5万人を越えており、百万人を越える被災者に対する援助物資の配送、特にシリア側に向けて難航しているとの報道がされています。先週の地区からの寄付依頼にご協力頂いた会員の皆様へ心より御礼申し上げます。被災された方々へ心よりのお見舞いを申し上げますと共に一日も早く以前の生活にもどれるようお祈り申し上げます。

先週は、23日に令和天皇誕生日とロータリーの創立記念日が重なり、24日はロシアのウクライナ侵略が始まって丸1年が経ちました。一日も早いロシアのウクライナからの撤退と停戦を進めて欲しいと願っています。

今日3月1日は、69年前の昭和29年に第五福竜丸がビキニ環礁で米軍の水爆実験で被爆

した日です。米軍側の予測を越える破壊力だったため避難水域の外にいた第五福竜丸に重大なる放射能汚染被害を与えてしまった事件でした。

天候では、昨日から一気に春が進んできました。本日も昨日以上の最高気温が予想されています。昨日、厚木でゴルフしていた際に、スギ花粉の大飛散を目の当たりにしました。10年に1度といわれる杉花粉の大飛散ですが、まるで火事でも起きたかのような煙の如くの花粉でその先の山々が霞むくらい飛散していたした。花粉症の方々が見たら卒倒してしまうのではと思うくらいの激しい飛散でした。季節の変わり目は1日の寒暖差も広がってきて、体調管理が難しくなっています。健康管理には一層の注意を払っていきたいと思っています。

スポーツでは、開幕まであと1週間と迫ったWBCの話題が連日報道されています。大リーグ組も今週から合流し始め今回の侍ジャパンが本格稼働に入ります。活躍が楽しみです。

▷地区関係・クラブ関係

1) 横浜市信任副校長の「短期企業等研修」受け入れ企業募集の案内が来ましたので、回覧します。学校の夏休み期間中の1～3日程度の体験学習となります。

2) グローバル財団奨学生として応募されてきた藤田葉月さんは、地区の助言を得て地区の財団奨学生に切り替えました。地区の面接はこれからですので何とか選考に適って頂きたいものです。

3) 2023-24年度地区補助金プロジェクト募集締め切り2月28日でしたが、今年は当クラブからの応募はしませんでした。

4) 地区より入会3年未満会員対象の交流会が3/24(金)17時よりインターコンチネンタルホテルで開催するとの案内がきました。中谷さん、大樹さん宜しくお願いします。

5) ローターアクト関東ブロック研修会(4/29-30)の案内が届いています。

6) 3月12日に関東学院中学校高等学校で国

際交流「和」の集いが横浜南RC主催で行われ、米山奨学生・学友が招待されています。参加費無料昼食付です。案内を回覧します。

7) 会長幹事会が3月16日に開催されるとの案内がきましたので、安藤・新川で出席してきます。

■幹事報告

例会臨時変更のお知らせ

○神奈川東ロータリークラブ

3月31日(金)休会

■元米山奨学生申君

皆様ご無沙汰しております。2012年度元米山奨学生申(シン)と申します。



私は11年前2012年に大学院を卒業しその後日立の研究所に就職しました。その後今まで10年間次世代リチウム乾電池の研究をして参りました。微力ながら電池の研究を通じて、電気自動車の普及や、風力・太陽光発電など自然エネルギーの普及に少しは貢献出来たと感じております。仕事をする上で大変な事沢山ございましたが、米山奨学生であった者として、プライドと高い志を持って仕事に向き合ってきたと思います。

プライベートでも私のカウンセラーをして頂いた佐藤真吾さんを始め皆様に大変お世話になってまいりました。数えきれない沢山の思い出があり、この場で全てを申し上げる事は出来ないのですが、どれも私にとってかけがえない思い出となっております。

私は日本に来て十数年たってきましたが、親が高齢になり、近くで親孝行をしたいとの気持ちから、3月中旬に帰国することになりました。

私は、日本と韓国に国境はないと思っています。両国とも私の母国と思っています。最後の横浜旭RCの皆様ともご縁を大切に精進して参りますので、これからもよろしくお願ひしなう。

■ニコニコ BOX

安藤 公一／①大関様、菊地様、ご多用の中お越し頂きありがとうございます。本日の卓話宜しくお願い致します。②申さんようこそ。例会を楽しんでいって下さい。

新川 尚／神奈川県社会福祉協議会、大関様、菊地様、本日の卓話宜しく申し上げます。シン・ソクチョル君お久し振りです。

五十嵐 正／神奈川県社会福祉協議会、大関様、菊地様、本日はお忙しい中ありがとうございます。卓話宜しく申し上げます。

佐藤 利明／神奈川県社会福祉協議会、大関課長様、菊地主幹様、お忙しい所有難うございます。②誕生祝を頂き有難うございます。

佐藤 真吾／①神奈川県社会福祉協議会、大関様、菊地様、本日はお忙しい所、当クラブ例会にお越し下さり有り難うございました。卓話宜しくお願い致します。

②元米山奨学生申くんようこそ。三年振りですね。帰国されると伺いました。韓国に戻られてからも元気で頑張ってください。

岡田 隆／大関様、菊地様、お忙しい中お越し頂き有り難うございます。本日の卓話宜しくお願い致します。

北澤 正浩／神奈川県社会福祉協議会、地域福祉部地域課大関様、菊地様、本日の卓話宜しくお願い致します。申さんようこそ。

平子 智章／大関様、本日の卓話宜しくお願い致します

■卓話／紹介 五十嵐 正

丁度一ヶ月前の2月1日「災害時の連携を考えるかながわフォーラム」にゲストとして参加させて頂いた際、県の社会福祉協会の課長（大関さん）にお会いし、以前より考えていた私の個人的思いつきとして、横浜で災害があった時おそらく次の日からボランティアが手弁当で駆けつけて来てくれる、例えば旭区に来ていただいたボランティアの方のせめてボランティア保険を、RCが支援するような事は可能でしょうかと伺い、可能と云われました。

そこで早速委員会に持ち帰り、先週皆様の意見を伺い議論を始めた処です。そもそもボランティア活動保険とは社会福祉協議会への登録が必要で、社会福祉協議会が立案された活動に適用される保険です。

皆様よくご存知とは思いますが、そもそも社会福祉協議会とは日頃どんな活動をされていて、また災害時にはどんな活動をされるのかご説明をしていただけるということから、本日、神奈川県社会福祉協議会より 地域福祉部地域課 課長の大関晃一様と主幹の菊地隆雄がお忙し申しらして頂きました。

卓話の前半は社会福祉協議会の活動について、後半は現在審議中のボランティア保険を、クラブが支援する案件について質疑をしていただけになっております。

■災害ボランティアセンターについて

(福) 神奈川県社会福祉協議会・地域福祉部地域課

大関晃一・菊地隆雄様

(大関様)

社会福祉協議会というのは全国都道府県に一つずつありまして、県内の市町村にもあります。横浜市は18区ありますが、それぞれの区にもございます。



社会福祉協議会というのは、老人ホームとか保育園といった社会福祉施設を運営する方々を会員としたり、あるいは民生委員の方々が会員となって、会員として運営をさせていただけるという団体で、目指すところはそれぞれの地域の地域福祉の推進ということで、地域でいろいろな困りごとに対してご支援をさせて頂く、その為に研修を行ったり、情報共有をしたりというような事を進めている団体になります。

今回は災害時の支援ということでお招きして頂いたおりましたが、いざ災害が起きた時は、この社会福祉協議会の中に、災害ボランティアセンターというのが立ち上がります。この災害ボ

ランティアセンターが立ち上がると社会福祉協議会というのは全国にありますので、その被災地で立ち上がった災害ボランティアセンターをみんなで支援をしていくというような形になります。

記憶に新しいところでは、静岡県熱海での水害の際には、静岡県内にいくつかの災害ボランティアセンターが立ち上がりまして、そこに私たちは関東ブロックの社協のメンバーとして、静岡県内に職員を派遣して、地元への災害ボランティアセンターの運営のお手伝いをします。というような形でお手伝いをさせていただいております。

その際災害ボランティアセンターを運営していくには多くの方々のお力添えがないと復興支援に向かって行けませんので、そういった中で、日常から沢山の方々と連携をして、その備えをするという形がありますので、今回五十嵐さんからお申し出を頂いたことは、正にそういった中で心強い申し出をいただいたのかなと思っておりますので、今後そのようなことが実現できる方向で一つ一つ確認をさせていただきながら、進めていければと考えております。

▷災害時の活動事例紹介（菊地様）

① 被災により起こること

- 被災により「日常」を失い、回復するには時間がかかる
- 地域だけではすべてに対応することができない。今までできていたことが難しくなる



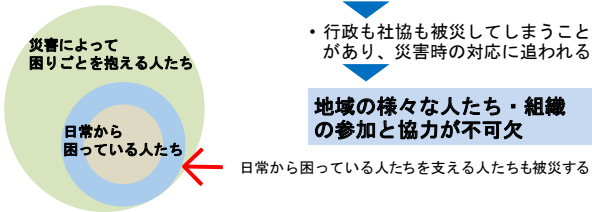
《懸念されること》

例えば

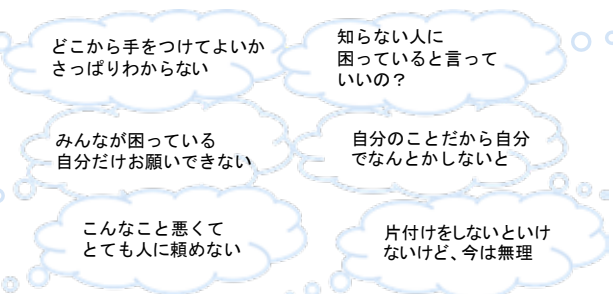
- ・生活困窮、障害など日常から生活課題を抱える人より困難な状況に陥る
- ・少子高齢化、つながりの希薄化 住民同士のつながり、支え合いがより減
- ・支援を求める方法を知らない人、求めることができない人 更に増加する

被災者のより早い生活再建のために

- ・災害時には困りごとを抱える人たちが沢山でくる
- ・日常から困っている人たちを支える人たちも被災してしまう
- ・日常から困っている人たちは、より困難な状況になる



被災者の心の中では



被災者の困りごとについて

- ・「助けてください」と人に伝えることは、容易ではない
- ・「支援したい」と思う人は多いが、「支援されたい」と思う人は意外と少ない
- ・支援する側にとっては些細なことでも、支援を受ける側にとってはハードルが高いと感じることもある

日常でも災害時でも、概してこのような気持ちになる人は多い。災害時はこの傾向がより顕著となり、被災者の困りごと把握を難しくさせることがある。

(1) 災害ボランティアの役割



災害時のボランティア活動は多種多様

被災者の生活再建のため＝日常を回復するためのサポート



災害時のボランティア活動の内容

過去の事例

作業・片付け 家の片づけ・清掃 ごみの分別、運び出し 泥出し、雪かき作業 探しもの、写真洗浄 物資の仕分けや配布	暮らしの手伝い 炊き出し、 避難所のお手伝い 入浴・通院・買い物・配食 学習支援・遊び相手 ペットのお世話 引っ越しのお手伝い 話し相手	イベント サロン、交流イベント、 相談会や勉強会など
情報 チラシやミニコミ誌づくり		

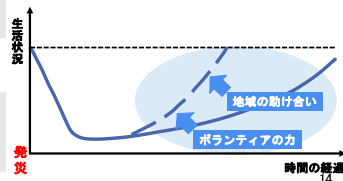
→ 被災者の困りごとをもとに、「何かしたい」という思いのある人ができることをする
 特定の人しかできないことではない

ボランティアの力

被災者の心理＝「こうなってしまったのは仕方ない」
 目標：災害前にあった「日常」を取り戻す

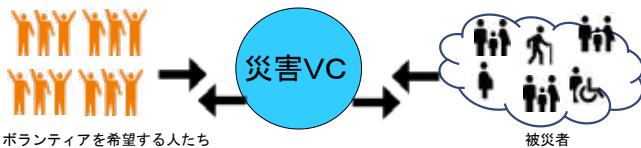
当面の暮らしの確保
 (片付け等)

これからの暮らしを支える
 (生活支援)



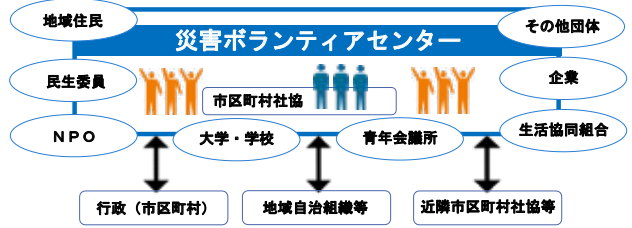
(2) 災害ボランティアセンターの機能

- 「災害ボランティアセンター」は、被災者の生活再建のために、ボランティアの力を届けるしくみ
- ボランティアの気持ちを受け止めて、安全に・スムーズに被災者のニーズに結びつける



協働型ボランティアセンターに向けて

社協が中心となり、地域の様々な担い手の参加と協力により、災害ボランティアセンターを運営することが望ましい



(3) 災害ボランティアセンターの基本構成



被災者の生活再建のために

災害ボランティアセンターにおける、ボランティアの力をつなげる3つの機能

- 被災者の相談・困りごとを把握する機能**
被災した人に直接向うだけでなく、日常的な地域のつながりを活かし、地域住民等の協力を得ながら、様々な方法で被災者の困りごとを把握する
 - 多くのボランティアの力を被災した人につなげる機能**
ボランティア活動を希望する人たちを受け入れるための周知や広報を行う
ボランティア活動を希望する人たちを受け入れ、被災者につなぐための調整をする
 - 専門的な知識や技術がある人や機関に仲介する機能**
ボランティア活動だけでは対応できない部分を専門家(職)や機関と調整、仲介し、被災者の困りごとに対応できるようにする
- これらの機能は、災害や被害などにあわせて最適化する

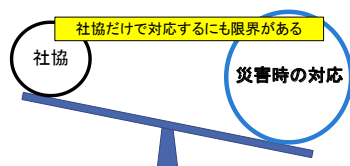
社協と地域の担い手が連携して行う
 社協が担う

社協が災害ボランティアセンターに関わる意味

- ◇**地域を基礎に活動を展開**
 - 日常的に住民と接している(地縁組織と顔の見える関係がある)
 - センター開所後は、社協の本来的機能として、被災者の生活支援、被災地の復興支援にあたる(生活支援相談員による支援など)
- ◇**地域福祉を推進する団体としての機能・事業**
 - ほとんどの社協は平常時から「ボランティアセンター」という機能を有する
 - 福祉の相談機関・福祉サービス事業者として要援護者を把握している
 - もともと使命として、地域の生活課題を把握し、解決する機能を有している
 - 行政や幅広い機関・団体とも関係を構築している
 - 民間としての機動力がある
- ◇**全国的なネットワークを有する組織**
 - すべての自治体に存在する
 - 全国的なネットワークを有している 等

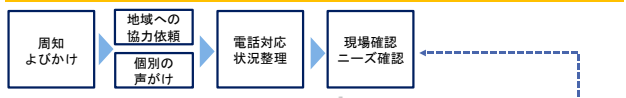
近年の災害に関する動向

- 近年、地震・豪雨災害等の自然災害が頻発化、激甚化、被害の広域化
- 新型コロナウイルス感染症の流行下において、被災地外からの支援が困難
- 南海トラフ地震・首都直下地震など想定される大規模災害では、被災地外からの支援が困難となること想定

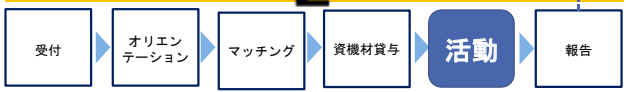


災害ボランティアセンターの一日の流れ

被災者の困りごとの把握



ボランティアの受け入れ



地域住民との連携

1. 通常の対応(マッチング)



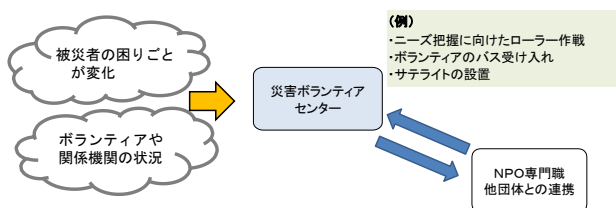
2. コミュニティマッチング



地域住民との連携のもと、コミュニティマッチングを選択するケースもある

センター運営のポイント

- ・センターの基本構成を災害の規模や状況にあわせて臨機応変に変えること
- ・被災者のニーズに対応するため、他団体との連携も検討すること



▷質疑

五十嵐会員／今回クラブとして協議を進めているのは、ボランティア保険への支援について搾ってご質問したいのですが、いざ災害が発生した場合状況によっては社協さんからの申し出の金額を直ぐ振り込めるかという事です。停電とか状況によってはクラブとして直ぐに対応が難しい場合が想定されます。その場合どうしたらよいか、また、このような申し出が他に事例があるのでしょうか。

菊地様／これまでの流れですと、ボランティアの団体やグループの方々は、地元の社会福祉協議会で保険に加入の手続きを済ませて被災地におもむくケースがほとんどのようです。

大関様／最近のボランティアの方々は大分勝手が分かってきて、自分で地元で保険に加入して来られるケースが現在では多くなっております。また、これまで活動保険を他の所からご支援していただくという活動が聞いた事はないのです。ですから今回こういった支援の形が実現すれば、また新たな取組になるかも知れません。

これは現金での取り扱いがポイントになることと、加入される方の名簿が必要になりますので、それを取りまとめをして、その分の現金を合せて地元の社会福祉協議会が登録をする。その流れが円滑になることが一つポイントになるように思います。

岡田会員／ボランティアセンターの立ち上げは県として立ちあげるのか、それとも区単位で立ち上げるのでしょうか。

菊地様／まず地元の社協と行政と災害ボランティアセンターを立ち上げるかどうか協議し、

それによって旭区なら旭区の社協に災害ボランティアセンターが立ちあがる事になると思います。県の社協ですと県の地区町村を支援する為に、県レベルの災害ボランティアセンターが出来ることになっております。県の社協はいうなれば後方支援といった形になります。実際に運営されるのは地元が中心となって活動にあたることになります。

大関様／だいたいどの地元も行政と社協が事前に協定を結んでおまして、例えば震度5以上の被害があると、行政が要請して災害ボランティアセンターがどこに設置する等事前に取り決めをしていますので、その被災状況に応じて災害ボランティアセンターが立ち上がる事になっております。

五十嵐会員／最後に提供する資金をいつどのタイミングで渡すか、当然被災した際停電等でATMなんかの稼働してない事が予想されます。その辺どうしたらよいのかという点です。

大関様／今回こういったお申し出を頂き、旭区社会福祉協議会と協議し、今日同席が叶わなかったのですが、やはり現金の取扱いとなると、資金を事前にお預かりする方法も考えられなくはないのですが、そうするとそれを社協としてロータリーさんからの基金として管理をするとなると中々厳しいのではないかとということで、逆に資金が発生しないとか、今回もいろいろな支援の形があったかと思いますが、今回静岡の方で、災害ボランティアセンターでロータリーの方が毎日つめていただいて、必要とする物資を必要に応じて届けて頂けるといった支援もあった地区もあると聞いておまして、旭区社協としましては、そういった形も含めて、もう一度災害時の協力についてお話をさせていただければ有難いとお聞きしてますし、また改めて例会に旭区、地元の社協が呼んで頂けるのであればお話をさせて頂きたいというように聞いております。

■次週卓話 3/15 厚地美香子様

(認定NPO法人あっちこっち 理事長)